

中学校区で一体となった生活習慣づくり

★ 実は、小中合同学校保健委員会 ★

◆四中校区では、小中連携しながらメディアコントロールについて取り組んでいます。今年度は、小中合同保健委員会を開催し、「メディアと上手につきあうために」とのテーマで、中学校の保健委員会からの発表によって、小中学生のメディアに関わる実態についての報告を行いました。その後、講演会を行い、中学校の全校生徒と職員、小学校の5・6年生児童と職員が参加しました。

《演題》「メディアと上手につきあうために」
《講師》「子どもとメディア認定インストラクター」

宗内 正照 さん



＜ 四中校区講演会 ＞

★ あ！学期に1回、元気生活チャレンジウィーク ★

◆金城中校区では、学期に1回「元気生活チャレンジウィーク」を実施しています。共通項目（低学年：9時30分までに寝る）（中高学年：10時までに寝る）（中学生：11時までに寝る）、各学校チャレンジ項目（中学校：メディアとの接触時間のコントロール）（小学校：9時以降はメディアを切る）を設定して取り組み、その結果を保護者へ知らせ、啓発（金城町生活たより等）をしています。
◇児童生徒の感想です。・前のチャレンジのときよりは〇が増えたと思います。自分でも無意識にできてよかったですと思います。◇保護者の感想です。・就寝は勉強があつてなかなか難しいけれど、スマホ等の使用は守れて、よく頑張っていました。家庭内でも工夫しようと思いました。スマホの時間は守れました。
この取組も2年目となり定着してきました。この期間は普段の生活を振り返り、よりよい生活習慣を考える良い機会となっています。金城中校区の「2時間以上テレビゲーム等をする子どもの割合」は29.2%でした。目標値28.5%まであと0.7Pです。来年度は、取組の見直しとともに就寝時間の設定が適正かどうかの検討も行いながら、継続実施していきます。

げんきせいかつチャレンジひょう

実施期間 6月8日(金)～6月14日(木)
提出日 6月18日(月)
高学年の○○中学校、2つの目標にチャレンジしよう。
夏休みの1・2・3等チャレンジ目標

学年	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14
低学年							
中・高学年							

〇〇回・〇〇校のチャレンジ目標

＜ 元気生活チャレンジ表 ＞

金城町「げんきせいかつ」たより

～子どもの感想～

～保護者の感想～

金城中

＜ 金城町げんきせいかつたより ＞

○「生活習慣」に関わる取組は成果として表れるまでには、時間もかかり、大変な労力を伴うものです。しかし、「生活習慣」を整えていくことは、一人ひとりの一生に関わる重要な問題でもあります。
もちろん「生活習慣」を整えるためには、学校の指導だけでは十分ではありません。子ども自身、教職員、保護者、地域が一体となって取組を進めていくことが必要です。

学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

★ 学び合う児童・生徒の育成 ★

○ わかる授業の実践 そうだ！「協調学習」 ○

◆旭中校区の中学校では、社会科の授業を中心にほぼ全教科で、「知識構成型ジグソー法」という手法を取り入れた「協調学習」を実施しています。生徒達は、エキスパート活動（異なる視点での学び）やジグソー活動（異なる学びを共有・統合）、クロストーク（各班の考えを全体で交流）を通じて、他の人の考えを知ることができたり、自分が説明することで自分の理解をさらに深めることができました。また、学校司書の協力のもとで学校図書館の書籍・資料を使ったりICTを活用したりすることで、必要な情報を取り出し、整理・分析してまとめ、発表する力を高めることができました。
また、小学校では、毎時間の授業でめあての掲示や振り返りをしたり、ペアやグループで話し合う活動を工夫することで、理解を深めていきました。



＜ 旭中学校の授業風景 ＞

○ やるぞ！「漢字検定に挑戦！」の取組 ○

◆弥栄中校区では、毎月小中学校の管理職と教育委員会弥栄分室との連絡会を行っています。その会の中で、学習意欲の向上を図る一つの手段として「漢字検定」に取り組む案が出ました。理由は、全国的な基準があり、各自が自分の目標（目指す級）に向かって努力することができるからです。
平成29年度から、小学校1年生を除く小中学校全児童生徒を対象に、「漢字検定に挑戦！」することをスタートしました。今年度は、7月に1回目の受験（受験料は公費負担）をしました。小学校の場合、目標としている級の合格率は77%です。学年が上がるにつれて合格率は低下の傾向があります。しかし、6年生の第1回の受験で5級（小学校修了程度）に合格した児童もいます。中学校の場合は、今年度、第1回の受験で3級（中学校修了程度）に合格し、さらに上の級を目指している生徒も出てきました。中学3年生のほとんどが「3級以上を取得して卒業したい」という意識を持つようになりました。希望者には、自己負担になりますが、2回目の受験の機会を設定することにしました。
学習意欲の喚起と「さらに、上級を！」との向上心を伸ばすためにも、有効な取組であると思っています。



＜ 漢字検定に向かう ＞

○基本的に子どもたちは「伸びていきたい」という意欲をもっています。しかし、様々な要因によって自ら切り拓いていこうとする力を失ってしまうこともあります。
「子どもたちが、主体的に学びに向かっている」という意欲を高めるための関わりについて、教職員・保護者・地域それぞれの立場からの視点での工夫や研修は欠かせません。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組を、全小中学校で進めていきます。

学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

○ 着実に 進路保障の取組 ○

『進路保障』とは、様々な困難を抱えている児童生徒、さらには全ての児童生徒が、自ら主体的に学ぶ意欲と態度、また、確かな学力と豊かな感性を高め、健康の増進を図り、さらに進路に対する明るい展望と差別に立ち向かう強い意志を持って、将来をたくましく切り拓いていこうとする態度や能力を身につけていこう、幅広い教育活動を計画的に進めていくことです。

◆三中校区では、人権・同和教育の推進を各小中学校で行い、各学校の実践を3校の担当者が共有して所属学校に還元する取組を行っています。人権・同和教育を基底に据えた、児童生徒一人ひとりを大切にする教育を推進することが、子ども達の成長にとって大変重要であると考えています。
◆二中校区では、これまで各学校で行っていた人権・同和教育の職員研修を4校合同で行うことにしました。合同で行うことにより、各校の進路保障への取組状況を把握することができるとともに、自校の取組充実への手がかりをつかむことができました。二中校区で目指す子ども像に迫るために、さらに具体化した子どもの姿や具体策を設定して取り組んでいく必要もあることが意識されました。今後も、継続した合同研修会の開催が望まれます。



＜ 三中第59回ニコニコフォーラム ＞



＜ 二中校区合同研修会 ＞

学校不応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

★ 児童・生徒の交流活動 ★

○ 地味にすごい！ 小中合同のあいさつ運動 ○



＜ あいさつ運動 ＞

◆一中校区では、共通ののぼり旗やたすきを使った「あいさつ運動」を継続しています。児童会や生徒会活動として、児童生徒の意識も高まり、取組の成果があがっています。
◆三隅中校区でも、児童会や生徒会活動とタイアップし主体的活動となるように取り組んでいます。時、相手、場に応じたあいさつができるよう、教職員も共通理解して一体となって推進しています。「自ら進んであいさつをした」と答えた児童生徒の割合は79%でした。朝、委員会や教職員があいさつ運動に立つことで、意識が高まりました。

○小中学校の連携した取組を通して、小学校から中学校へのつなぎを円滑に進めていくことができます。頭の中で考えているだけでは、子どもたちにとってのハードルの高さは低くなりません。
実際に体験すること、実際に交流することで不安な気持ちが取り除かれていきます。回数を増やして、より日常的な取組に近づけていくことが課題です。